ほど悪いことはない。そうしてしまったら、もうそれ以上りっぱに生きていくことはできないではないか。」

冉求は、うなだれて先生の話を聞いていましたが、やがて顔をあげて、きっぱりと言いました。

「先生、わたしの考えがまちがっていました。」

冉求は、晴れやかな顔で部屋を出ましたが、その足どりには新しい力がこもっていました。

そののち、冉求は、以前にもまして学問にはげみ、ついに、たいそうすぐれた政治家になりました。

9 おんぼろ公園

公園のすみにある花畑に、野球のボールがとびこんだ。それを道男が追いかけていくと、

「あっ、花をふまないで。」

と、マリがさけんだ。

「なんだ。こんなもの。」

ボールがなかなか見つからないので、いらいらした道男は、かまわずに足もとの三色スミレをふみつけた。

「まあ、らんぼうね。」

「道ちゃん、よせよ。」
と、広や実も止めたが、間に合わなかった。
むらさきや黄色の花がどろだらけになって、首からおれてしまったものもある。マリは道男をにらんでいる。道男はボールを拾ったが、広や実も顔をしかめてだまってしまった。
「ふん。」
と、道男は、わざと、こんなこと平気だというような顔をしながら、ぱたぱたと広場の方へかけ出して行った。
それから、一週間ほどたって、その日はひとりで、道男がまた公園へやってくると、ちょうど、公園のそばの道を、ぞろぞろと、見なれない子どもたちが通りかかった。どこか遠くの学校の遠足

の帰りらしい。
「やあ、きたない公園だなあ。」
と言う声がした。
「うん。おんぼろ公園だね。」
と、あいづちを打ちながら、公園の中をじろじろ見ている子もある。それを聞いた道男は、思わず、
「なんだ、こらっ。」
とどなり返した。
ふだんは、何とも思わない公園だが、やはり自分の町のものをよその子からわらわれると、はらがたった。でも、むこうは大ぜいだし、かかっていくこともできない。

「ふん、ほんとうのことを言ったんだよ。」
と、また、行列の中の子が、こちらへ向かってそう言ったので、道男は、もう返す言葉が出なくなった。
その行列は、すぐに通りすぎていったが、「おんぼろ公園」と言われたことは、道男のむねの中に残った。
そうだ。たしかに、おんぼろ公園だ。広場には、紙くずやきたないものがちらばっている。そうして、まわりにならんでいるさくらやポプラやすぎなどの木は、みんな枝をおられたり葉をむしられたりして、見るもあわれな木ばかりだ。
花畑の中もすっかりあらされていて、花も草もなくなっている。その代わりに、キャラメルのあきばこや古ぐつ、われたビールびん、茶わんのかけらなどが、まるで箱をひっくり返したようにつみ上げられている。
道男は、いやな気持ちになった。公園がきたなくあれているのを見るのもふゆかいだったが、それよりも、公園をこんなにあらした人の中に自分もまじっていたのだ。いつも、ここで友達といっしょにあばれ回っていて、木もおったし、花畑もふみづぶしたし、紙くずもまきちらしたのだ。
そんなことを考えているうちに、ふと、むねに、ある考えがうかんできた。
そうだ。これから、この公園をきれいにする運動を始めてやろう。まず、みんなでそうじをすることにしたらいいだろう。

でも、そんな考えの後から、いや、自分がそんなことを言い出したら、「なんだ、今までらんぼうをしていたくせに。」と、みんなにわらわれるだろうと思った。せっかくの思いつきを、実行する勇気がなくなった。

それから、十日ほどたった日曜日の朝、道男は公園へ行って、思いがけないものを見た。

一年生や二年生の子たちが、二、三人で、ほうきを持って、ブランコのまわりをはいているのだった。

「どうしたの。」

とたずねると、

「うん、きのうね。ここで、さぶちゃんが、けがをしたんだよ。」

ブランコからおりた時、落ちていたガラスびんのかけらで、足を切ったのだという。

「ふうん。」

と、道男はうなずいたが、「やられたぞ。小さい子たちにやられた。」と思った。

「よし、ぼくも手伝うよ。」

小さい子たちのほうきをかりて、さっさと、そこらをはき始めた。そこへ広や実たちもやって来た。道男がわけを話すと、二人もうなずいて、

「そうか、じゃあ、これから、ぼくらで公園をきれいにする運動をしようよ。」

「そうだ。それから、木や草花も、遊び道具も、だいじにするようみんなによびかけようね。」

そう言いながら、三人は明るくわらった。

10 マラソン大会

健一君は、四月にこの学校へてん校してきました。村の小さな小学校からてん校してきた健一君には、鉄きん三階だての町の小学校の生活は、とまどうことばかりでした。

休み時間に友だちがドッジボールにさそっても、健一君はいつもひとりで教室にのこり、本を読んだりしていました。そして、前の学校の楽しかったときのことを思い出したりしていました。新しい学校になじもうとしない健一君には、なかなか友だちができませんでした。

9　おんぼろ公園

4－(1)　約束や社会のきまりを守り，公徳を大切にする心をもつ。（規則尊重，公徳心）

1主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

集団生活のあるところには必ず規則やきまりがある。もし仮に，これらの規則やきまりが無ければ集団生活の秩序は成り立たず混乱をきたす。

公共心とは，公共の物や場を大切にし，自らもその維持や増進に積極的に働こうとする心である。公徳心は，社会秩序の維持に協力し，他人に迷惑をかけない，公益を損なわない，公衆に迷惑をかけない心構え，また公共のために尽くそうとする心である。

住みよい社会，望ましい社会を築いていくためには，一人一人が，「自分さえよければよい」という考えを乗りこえていく必要がある。

〈子どもの実態について〉

「みんなで使う場所はきれいに」とか「みんなが使うものは大切に」とかいうことは頭ではわかっている。ところが，実際の場では，自分さえよければよいという意識が頭をもたげ，周囲がやっていないとなかなか実行できないこともある。きまりを守ることや，公共心・公徳心の大切さを身につけさせたい。

〈資料について〉

主人公が公園でボールをさがすため，友達のとめるのもかまわずに，花壇の中へ入って荒らしまわる。内面ではとがめているものの，表面では平然として，悪びれる様子もない。そんな主人公だが，他校の遠足帰りの子どもに，自分たちの公園の悪口を言われて腹を立てる。それがもとで，今までの自分を強く反省し，自ら公園の美化につとめようと変容していくのである。この資料を学ばせることにより，身近な公共物に対する環境美化への意欲を高めさせたい。

2ねらい

進んで公徳を守り，公共の物や場所を大切にしようとする態度を養う。

□板書

おんぼろ公園

平気で公園をあらしていた道男が、進んで公園を美しくしようという気持ちにかわったのはどうしてだろう。

○平気で公園のものをあらす。
注意されても反省しない。

○よその子に「おんぼろ公園」と言われた。
今までの自分の行いを反省した。

そうじしよう。
あらしまわっていた。
友達が笑うだろう。　まよう

一、二年の小さい子がそうじしていた。
先をこされた。
勇気がわいた。

○自分たちの手で美しくしよう。

美しい公園

3展開

学　習　活　動	支援上の留意点
(1)　公共物が汚されているのを見た経験について話し合う。	・　ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。
(2)　資料を読んで，道男の考えや行為について話し合う。	・　初発の感想を発表する中で共通の問題意識がもてるようにする。
①　道男について，心に残ったことを発表しましょう。 ・友達が止めるのに，平気で花だんをあらしてわるい。 ・友達に注意されて，心の中では悪いと思っている。 ・「おんぼろ公園」と言われたのに腹を立てたが，今までの自分を反省したのはえらい。 ・小さい一・二年生の子に勇気づけられたと思う。	
■〈平気で公園をあらしていた道男が，進んで公園を美しくしようという気持ちにかわったのはなぜだろう。〉	
②　はじめの道男は，どんな子だったでしょうか。 ・平気で公園をあらしていた。 ・友達がとめるのにきかなかった。	・　自分の行動を反省し，はずかしく思い，何とかしなければと考えた主人公の人間らしいよさに共感できるようにする。
③「おんぼろ公園」と言われたことから，どんなことを考えたでしょうか。 ・腹が立ったが，本当のことなので言い返すことができず，とてもくやしかった。 ・「おんぼろ公園」と言われたことで，自分もふくめて，この公園を使っている人の心がおんぼろということに気付いて，はずかしくなった。 ・自分たちの手で美しくしようと思いついた。	
④　すぐ実行にうつせたでしょうか。 ・今まで公園をあらしていたのに「おかしい」と言われるだろう。 ・美しくしたい気持ちはあるが，迷ったと思う。	・　非を認めたものの，実行に移せない心の弱さに気付くことができるようにする。
⑤　迷っている道男の心に，はっきりとやる気を起こさせたものは何だったでしょう。また，そのときの気持ちについて考えてみましょう。 ・小さい子たちが，そうじをしているのを見て，今までの自分と比べてはずかしくなった。 ・勇気がなく，心の中でもやもやしていたが，勇気がでてきた。	・　迷っている道男が，進んで公園を美しくしようと決意するすばらしさに気付くことにより，ねらいとする価値にせまることができるようにする。
(3)　自分たちの生活について振り返る。 ○　学校，乗り物，道路その他の公共の施設で，今まで，みなさんがしてきたことについて話し合いましょう。 ・道路に落ちていた紙くずをひろったことがある。 ・バスに乗るときに，順番をきちんと守った。	・　日常生活の中で，できた自分に気付くことができるようにする。
(4)　教師の話を聞く。 ○　駅の便所を毎日そうじした中学生があるんですよ。	・　実践意欲が高められるように，望ましい事例を紹介する。